

項目	政府・東電	当方認識
1. 廃炉ロードマップの見直し	今後、必要に応じて見直したいと～消極的姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・進展が顕著でない ・政府（関係閣僚会議）のリーダーシップ欠如 ・現場での思考停止
2. 汚染水ゼロの実現	現在 100 t/d まで減少、今後 50-70 t/d 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋放出によりゼロ化へのモチベーション喪失 ・汚染水処理に係る事故、困難への危機感欠如
3. デブリ空冷化への可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、空冷化の可否判断にまでは至らず ・引き続き注水停止試験を継続 	注水冷却の停止（＝空冷化実現）が汚染水発生停止への大きなキーポイントであるとの認識は共通
4. 取り出しデブリの処理	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・研究段階 ・廃炉作業の進捗に応じて物量や性状が明らかに ・まずは2号機からの取り出しに注力 	試行錯誤、暗中模索の段階
5. CCNE 提案の長期遮蔽管理案	廃炉技術グループにインプットすると	

成果と課題

- 当方提案を直接説明・手渡し出来たことは一歩前進
- 相手は、広報・対話活動の一環としての対応
- 最も適切かつ安全な廃炉手段の実現は、結局は政府・東電対市民の力関係に依る⇒地道な活動の継続